

MACF 礼拝説教要旨

2023年7月23日

【イエス様の涙】

ルカによる福音書 19章

41 いよいよ都の近くにきて、それが見えたとき、

そのために泣いて言われた、

42 「もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら……………しかし、それは今おまえの目に隠されている。

43 いつかは、敵が周囲に壘を築き、おまえを取りかこんで、

四方から押し迫り、 44 おまえとその内にいる子らとを地に打ち倒し、

城内の一つの石も他の石の上に残して置かない日が来るであろう。

それは、おまえが神のおとずれの時を知らないでいたからである」。

1) 平和をもたらす道を知ることの大切さ

エルサレムは宗教都市であり、神の都、豪華な神殿の場所でした。

活発な宗教活動がなされており、礼拝が行われていました。

大勢の訪問者たちがおり、いつも人出はお祭りの時のようだったと思います。

しかし、そういう宗教行事を連日大切に継続しながら、その指導者たちはイエス様を殺そうと考え自分たちの既得権益を維持することに躍起に躍起になっていました。

神様との平和も、国と国との平和も、民衆の中での平和も、きわめて

他人事であり、自分たちの欲望に振り回されながらの日々でした。

彼らは「平和を作り出す」ことをほとんど考えませんでした。

常にローマを倒すことが彼らの夢だったと思います。

その状況についてイエス様は涙を流されました。

神が、選んだ場所、神の臨在を味わうべき神殿が、形骸化して

いることにイエス様は本当に心を痛めていたと思います。

それは、この次のエピソードからも察することができます。

2) 都の破壊

イエス様は、エルサレムの崩壊を予告しておられます。

歴史を見ると

紀元前 10 世紀の初め最初の神殿を ソロモン 王が建立し、前 7 世紀ヨシヤ王の宗教改革で、神殿は神の地上的臨在の 唯一 の場とされ、神殿における祭儀の執行が民族の宗教の中心課題となった。

神殿は前 587 年バビロン軍によって破壊され、そのあと前 516 年 ゼルバベル によって 再建 されましたが、異民族との戦いで荒廃し、前 1 世紀末 ヘロデ王 によって増修築され、紀元 70 年 ローマ軍 の攻撃にあって崩壊した。

歴史家のヨセフスによるとこの攻囲戦で「110 万人」が死に（そのほとんどはユダヤ人）、9 万 7 千人が捕虜となり奴隷にされたと書いています。

徹底的な破壊と破滅がもたらされたのです。

これらのことがイエス様の昇天のあと 40 年くらいあと、実際に起こりました。

全てが破壊され、瓦礫と化したのです。

3) 神のおとずれの時を知る

イエス様は、それらを予告しながら涙し「平和の道知らない」ことと

「神のおとずれの時知らない」ことを嘆いておられます。

逆の見方をすれば「平和の道を知る」ことと「神のおとずれの時を知る」ことができたら、私たちの心は平和を保つことができるということにつながります。

平和を作る努力。

神様がいろいろな形で心にメッセージを届けようとしていることを深く知る。その中心は「イエス様ご自身が遣わされたという出来事」これこそがまさに「神のおとずれ」でした。

神様はさまざまなかたちで私たちを訪れてくださっています。

空を見ても、木々や花を見ても、そこに神様からの語りかけを

感じ取れるなら、そこにある意味での神様の訪れがあると言えると思います。それを感じ取る心はとても重要であり、それを失ってしまうと

心がとてもギスギスしたものになっていくでしょう。

平和の道を探せない心がそだってしまうことになるようです。

: **

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/tfaB2oLvEhk>